

TOYAMA VICTIM SUPPORT CENTER



公益社団法人

とやま被害者支援センターだより

2017. 12.25 発行 第26号



野上祇麿「まつりの朝」

平成29年度 弁護士による無料法律相談

◆相談は予約制となっております。

まずはお電話ください。

TEL 076-413-7820

とやま被害者支援センターまで

相談日

平成30年 1月31日(水)
2月28日(水)
3月21日(水)

AM 10:00~12:00

平成29年度犯罪被害者週間行事「講演会&コンサート」報告

犯罪被害者週間（11月25日～12月1日）にあわせ、とやま被害者支援センターは11月25日、高岡市生涯学習センター（ウイング・ウイング高岡）で「講演会&コンサート」を開きました。富山県や富山県警察など県内の被害者支援関係機関や市民など約250名が参加しました。

はじめに四十物直之当センター理事長があいさつ。「これまでの関係者の協力に感謝します。今後、支援の輪が大きく広がるよう祈念し、努力を続けます」と述べました。続いて来賓の成富則宏富山県警察本部警務部長が「県犯罪被害者等支援条例の施行や県犯罪被害者等支援協議会の設立など被害者支援に対する県民の関心が高まっています。これからも被害者のニーズに応えたきめ細かい支援を進めたい」とあいさつしました。

次 第

- 第1部 開会挨拶 理事長 四十物直之
来賓挨拶 富山県警察本部 警務部長 成富則宏
「命の大切さを学ぶ教室作文コンクール」表彰・朗読
- 第2部 基調講演 本郷由美子さん
（大阪教育大附属池田小児童殺傷事件被害者遺族）
コンサート 野村小学校ウインドアンサンブル
閉会挨拶



来賓祝辞
成富 則宏様

理事長挨拶

理事長
四十物 直之



当センターは、平成18年9月、民間の被害者支援団体として発足し、今年で11年目を迎える訳であります。この間、平成22年6月には、富山県公安委員会から「犯罪被害者等早期援助団体」に指定を受け、警察からの情報提供のもと事件事故の早い段階から被害者等の支援に当たることができるようになりました。また、平成25年4月には、富山県知事から「公益社団法人」として認定され、公益事業を目的とする法人として社会から認知いただけるようになったところであります。

こうした中において、本年4月施行の「富山県犯罪被害者等支援条例」のもと、同協議会の構成員として社会から負託された責務を果たすため、新たなスタートを切ったのであります。また、県、県警察、市町村、そして多くの賛助会員各位のご理解と支援をいただき、一歩ずつではありますが支援体制を整え、犯罪被害の早期回復と軽減に向け、また多様化、深刻化する被害者支援に対応できるよう鋭意努力しているところであります。

一方、依然として何の落ち度もない多くの方々が県内外で、突然、事件事故に巻き込まれるといったことが日常的に、かつ後を絶たないのが現状であり、被害者等のニーズに添ったきめ細かな支援はもとより、自治体をはじめ関係機関・団体相互の連携がますます重要になってきております。

当センターでは、今後とも理事役員・職員並びにボランティア一同、被害者支援の質の向上と信頼の確保に努めるとともに、「命の尊厳」に思いを致し、事件事故に遭われた方々に寄り添いながら、真に平穏な日常生活を取り戻していただくために、途切れのない支援を目指し、精一杯の努力を続けてまいりたいと決意を新たにしているところであります。

終わりに、関係各位のご健勝ご多幸、そして本日の行事を通じて被害者支援の輪が更に大きく広まりますことを祈念申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

第1部 「命の大切さを学ぶ教室」作文コンクール表彰・朗読

当センターと富山県警察本部が実施している「命の大切さを学ぶ教室」作文コンクールの表彰式が行われた後、最優秀賞を受けた田中杏奈さん(高岡市立志貴野中学校3年)と五十田あかりさん(富山県立高岡工芸高等学校3年)がそれぞれ受賞作を朗読し、聴衆に深い感銘を与えました。

作文コンクールで表彰された
中学・高校生のみなさん



作文コンクール入賞者

●中学生の部

入 賞	学 校 名	氏 名	作 品 名
最優秀賞	高岡市立志貴野中学校3年	たなか あんな 田 中 杏 奈	被害者と犯人
優 秀 賞	南砺市立福光中学校3年	ほん だ り さ 本 多 理 紗	叔父が残してくれたもの
優 秀 賞	南砺市立福光中学校3年	たか た つばさ 高 田 翼	命の大切さを学ぶ教室の講演を聞いて
佳 作	高岡市立高陵中学校2年	えん やま りん た ろ う 縁 山 倫太郎	命というもの
佳 作	南砺市立福光中学校2年	ふじ もと ゆう せい 藤 本 優 生	今生きていることへの感謝
佳 作	南砺市立福光中学校3年	い どう ひかる 伊 藤 輝	命の大切さを学んで
佳 作	富山市立芝園中学校2年	みず はら たく み 水 原 匠 海	被害者の講演をきいて

●高校生の部

入 賞	学 校 名	氏 名	作 品 名
最優秀賞	県立高岡工芸高等学校3年	い か だ 五十田 あかり	私たちが今できること
優 秀 賞	県立高岡工芸高等学校3年	あき もと る 秋 元 琉 里	一度きりの自分の人生
優 秀 賞	県立呉羽高等学校1年	まつ なが り さ 松 永 莉 咲	“命”とは
佳 作	県立高岡工芸高等学校3年	いけ た み お 池 田 弥 央	命は一瞬
佳 作	県立高岡工芸高等学校3年	うえ の し おり 上 野 詩 織	当たり前の日々
佳 作	県立小杉高等学校1年	おお つか ゆう き 大 塚 悠 輝	命の重さ

中学生の部 最優秀賞 「被害者と犯人」

高岡市立志貴野中学校3年 田中 杏奈

その一瞬の出来事が自分だったらと考えたことはありますか。

私は、命の大切さを学ぶ教室で、ひき逃げにあった被害者の話をききました。

被害者の方は、お子さん二人と歩いていて前から来た車にひかれてお子さん一人とお腹にいた次男を亡くされました。犯人は、二回目の交通事故で免許の取り消しになるのが嫌で逃げたそうです。その犯人がすぐに救急車を呼んでいれば二つの尊い命が奪われることがなかったのではないのかと思いました。

私は、話を聞くまでは、私には関係ないな、身の周りで起こったこともなかったので人事のようになっていました。しかし、話をきいているうちに、人事ではない、今起こりうるかもしれないと思うようになりました。自分がルールを守っていても相手次第で、命を亡くしたり、大切なものがなくなってしまうたり、どこにでも危険が潜んでいるということを知りました。

もし、私が自分の大切なものを奪われたとしたら、耐えられず家族や友人に支えられても立ち直れないくらい苦しみだろと思うます。それに、自分が苦しむだけでなく家族の苦しみもとても大きなものだと感じました。

被害者の方は、犯人へのただ一つの願いも断られたそうです。もし、自分だったら暴言を吐き、怒りが爆発すると思います。犯人は、何一つなくしたものがなく、被害者は、命を亡くしたり、大切なものがなくなっていて、裁判では犯人ばかり保険会社や弁護士に助けてもらっているのはおかしいと思いました。

これからは、犯人より被害者の心の傷のケアについての取り組みを大切にしていける社会を作っていく必要があると思います。そして、犯人が自分の起こしたことに對して反省し続けるチャンスを与えなければいけないと感じました。そのために、私たちができること。それは、被害者の方の気持ちになって考えてみたり、もし、自分がその立場だったらと考えることだと思います。

自分が悪かったとしたら誠意を込めて謝ることが大切だそうです。私は、誠意の気持ちを大切にしたいです。悩みなどがある時に相談する人を見つけたいです。このようなことができるのは命があってこそです。私は命を大切にしたいです。そして、嬉しいこと・楽しいこと・辛いこと・悲しいことなど沢山経験したいです。

決まりごと・ルールを守ることによって悲しい出来事は減ると思います。ですが、その周りには危険が潜んでいる可能性が十分にあるということをお忘れずに毎日を過ごしていきたいです。

**高校生の部 最優秀賞 「私たちが今できること」** 富山県立高岡工芸高等学校3年 五十田あかり

普段から「命」ということを意識して過ごしている人は、どれくらいいるだろうか。私も含め、多くの人は氣にとめずに過ごしていると思う。しかし、命は限りあるもので大切なものである。日々意識して過ごすことは難しいが、何かを機に、私たちはそのことを考え感じる必要があるのではないだろうか。私は、この作品を機に命の大切さについて改めて考えた。

私自身、事件や事故に遭遇したことはない。しかし、毎日のように命に関わる事件や事故のニュースを目にする。自然災害、交通事故、自殺、意図的な殺人など様々だ。私が知らない場所で、今も誰かが命を落としている。そんなことが毎日のようにあるのだ。

先日、学校で「命の大切さを学ぶ教室」が行われた。そこでは、夫を交通事故で亡くされた女性の話を聞いた。その方のご主人は、自損事故ではなく、二人の男性の車に引かれて命を落とされたそうだ。私たちに切々と語りかけられる声から、悲しみ、憎しみ、辛さ、悔しさ、たくさんの気持ちを感じた。実際にこのような被害に遭われた方の話を聞くのは初めてだったので、衝撃的だった。その方の気持ちを私たちは全て理解することはきっとできない。夫という一家の大黒柱を亡くし、まさに死の苦しみ以上の辛さがあったと思う。

この教室を通して、死というものはあまりにも突然やってくることや加害者という存在のことなど、テレビのニュースで聞くようなことは決して他人事ではないということを痛感した。もし、今日自分の家族が、ということをお話になっていたの、今でも信じられない自分がある。本当に死というものは、誰にいつ訪れるのかは分からない。きっと誰しも、自分の周りに起こることとは考えていないし考えたくもない。でも、こうして、実際に身近な人が誰かの死というものを経験している。もしかすると、何気なく道ですれ違う人、同じ学校に通う友人や近所の人、自分の周りでもその辛さを経験している人はいるのかもしれない。私が知らなくても、その辛さを胸に畳んで一生懸命生きているのかもしれない。

今、私ができることは何だろう。命がある、生きているということはとても素晴らしいことだ。人の死は予知できないが、命があるからこそ、できることがあるはずだ。それは、「今に感謝すること」や「思いやりのこころ」ではないかと思う。今、生きていることに感謝して、家族や友人など周りの人との関わりを大切に、後悔のないようにすることだ。そして、思いやりのこころを持つことで、人を傷つけることのない世界に繋がると思う。

ニュースを見たとき、他人事だとは思わず、今一度考えてみる。それも命の大切さに気付く一歩ではないかと思う。何気ないときに考えること、それも思いやりのこころなのではないだろうか。そんな気持ちを一人一人が持つことが大切だと思う。



講演 寄り添う大切さ いま一度

演題 「いのちの重さを見つめ続けた16年
～^{かな}愛しみとともに生きる～」

講師 グリーフパートナー^さ歩み^み代表 精神対話士

本郷 由美子さん

(大阪教育大附属池田小児童殺傷事件 被害者遺族)



講演要旨

心の傷を癒す取り組み

私は精神対話士として、また、グリーフケアといわれる悲しみに寄り添う活動に取り組んでいます。心の傷は薬では癒されないことを私自身が池田小事件を通じて体験したからです。事件の後、大変苦しんでいた私を救ってくれたのは、寄り添ってもらえること、話を聞いてもらえることだったのです。話を聞く、寄り添うことの大切さを考えるときに、事件の犯人の生き方が例に挙げられます。犯人は幼少期からさまざまな問題を起こし、その原因を「社会の責任」と一方的にうらみ、仕返しをしてやろうと事件を起こしました。もし、犯人にかかわった多くの人の誰かが犯人に寄り添うことができたなら、事件は起きなかったかもしれません。

「お帰り」が言いたくて

被害者らに寄り添う活動のほか、命の重さ・大切さを子どもたちに伝える「命の授業」や、学童保育にも取り組んでいます。子どもたちは「先生ただいま」と言ってやってきます。「ただいま」「おかえり」と当たり前にいえる会話がどれだけ大切なことでしょうか。娘と最後に交わした言葉は「ママ、行ってきます」「行ってらっしゃい」でした。もし誰かが願いを叶えてくれるならば「お帰り、優希ちゃん」と会話している場面をプレゼントしてほしい。それくらい、このような対話は大切です。



犯罪被害者に寄り添うことの大切さを訴える本郷さん

「68 歩」は娘のメッセージ

犯罪被害者・遺族はさまざまな喪失感にさいなまれるほか、必ずといってよいほどトラウマと悲嘆を抱えて生きていかなければなりません。私の場合、愛娘を失うことで、誹謗中傷などによって（自尊心の喪失）、母としての世話ができない（役割の喪失）などを体験する中で、絶望を生きる力に変えようとする気持ちが生まれてきました。それは娘が犯人に刺された後、教室から廊下へ逃げようとして 68 歩、39 メートルも歩いたという事実を知ったからです。娘の気持ちを知らうと、その 68 歩を毎日歩きました。ある日、廊下を笑顔の娘が走ってくる姿が見えました。娘は命がけで弱いママに命の尊さ、生き抜くことの意味を教えてくれたのではないのでしょうか。69 歩目は娘と手をつないで歩きたい。私はそう決めたのです。

悲嘆の根源に「愛」が

今はかなしみとともに生きようと思っています。グリーフケアを学ぶことで悲嘆の根源というのは「愛情」が根底にあり、愛するがゆえに悲しみが深い「愛おしい愛（かな）しみ」が理解でき、奥深いところまでものごとを感じられる心が取り戻せたと思っています。目の前に悲しみで絶望している人がいたらどうしようか。何とかしようと声をかけぬとも、そのままいてくれたらいいのです。胸をかきむしられるばかりの苦しみを抱える被害者が、勇気を出して支援を求めてくれば、それに応えられる態勢であってほしいのです。人は生きる力を与えあい支えあって生きています。たくさんの命と繋がりを持ち、その繋がった命を大切に。それが安心で安全な社会の実現に繋がるのではないのでしょうか。

第2部 コンサート～閉会エンディング

コンサートは高岡市立野村小学校ウインドアンサンブルの32名が登壇。力強く軽快なマーチング曲「ハローサンシャイン」で開幕。小学生とは思われない巧みなテクニックを披露し、聴衆を魅了しました。2曲目はアニメでおなじみの「ルパン3世のテーマ」、ジャズナンバー等を次々に熱演し、演奏後、会場は大きな拍手に包まれました。

最後に、宮本春慶専務理事・事務局長が「心に残るひとときを会場の皆さんと共有できました。今一度、犯罪被害者に対する理解を求めたい」と閉会の言葉を述べ、感謝の気持ちを表しました。



会場から大きな拍手を受けた野村小ウインドアンサンブルの熱演



閉会の言葉を述べる宮本専務理事（左）

■募金とアンケートのご報告

会場にて、54名の方から被害者支援に対するアンケート、ならびに行事にご参加いただいた感想を頂戴しました。また、被害者支援のための募金をお願いしたところ31,923円が寄せられました。アンケート・募金のご協力ありがとうございました。

<アンケート結果>

1 性別・年代・職業は

男性…25人 女性…28人

10代…11人 20代…3人 30代…6人 40代…7人 50代…14人 60代…7人

学生…11人 有職者…28人 無職…5人 主婦…7人

2 この催しをなんで知りましたか

ポスター…8人 関係・所属団体…30人 その他…16人

3 「とやま被害者支援センター」という名前を聞いたことがありますか

ある…34人 ない…20人

4 「とやま被害者支援センター」がどんな活動をしているか知っていますか

知っている…29人 知らない…25人

5 「とやま被害者支援センター」に関するご意見・ご要望（抜粋）

- ・苦しんでいる被害者の方が生きる力を取り戻すまで寄り添ってあげることの大切さと相談できる機関があるということは大変心強いことだと思います。
- ・社会の表に出にくい活動かと思いますが、頑張ってください。
- ・支援者をもっと増やすために県・市町村あげての活動が必要かと思っています。
- ・被害者支援の活動をより深く知ることが出来、今後支援センターに関わる機会があるときは、応援したいと思う。

6 本日の行事に参加してのご感想（抜粋）

- ・「命の大切さを学ぶ教室」はとても良い活動だと思います。
- ・毎日、楽しく過ごすことが出来ているのは当たり前前の事ではないので、一日一日を大切にしていきたいです。
- ・講演に感動しました。命の大切さ、重さを深く考える機会ができました。
- ・講演を聞いて「犯罪被害者」と呼ばれる方がいない世の中を願わずにはられません。野村小学校の演奏も素晴らしいかったです。これからも頑張ってください。ありがとうございました。
- ・何気なく毎日を過ごしている、この瞬間の幸せを実感しました。作文にも感動しました。大人として何ができるかを考え取り組めたらと思います。
- ・被害者の話を聴くとつらくなるが、聴くことの大切さがわかりました。悲しみが希望につながるというしめくりの話で少し前向きになれて、小学生の演奏で癒され、思い切り池田小学校を思い出して悲しくなる。

活動報告

研修会

◎継続研修

- 事例検討会 大久保 恵美子先生 NPO法人全国被害者支援ネットワーク顧問・当センター理事
9月1日、11月2日、12月1日

● 継続研修会

- 宮地 美貴子先生 福井被害者支援センター支援局長
「被害者遺族の声」 9月19日

【参加者の声】
亡き最愛の息子の為に真実を知りたい一念で、今日まで頑張って活動されている宮地さんに感銘しました。 ボランティア



宮地 美貴子先生

- 藤田 きよ子先生 NNVS認定コーディネーター（千葉被害者支援センター）
「性暴力被害に関する支援の留意点」 10月17日

【参加者の声】
72時間以内の早期対応が必要であり、情報提供と関係機関との連携の重要性を強く感じました。
また、長期にわたる心理的ケアの必要性も感じました。
ボランティア



藤田 きよ子先生



◎県外研修

- 直接的支援実地研修 犯罪被害者支援都民センター 8月21日～25日
- 全国被害者支援フォーラム2017（東京）6名参加
- 平成29年度秋季全国研修会（東京）6名参加
- その他、県外の研修に1回2名、県内研修に8回のべ20数名が参加

講演活動

- 命の大切さを学ぶ教室 11月14日 高岡龍谷高校
11月17日 志貴野高校

広報・啓発活動

- 市町村巡回
パネル展 8月 21日～25日： 富山市庁舎 28日～ 1日： 高岡市庁舎
9月 4日～ 8日： 射水市庁舎 11日～15日： 魚津市庁舎
19日～22日： 滑川市庁舎 25日～29日： 南砺市井波庁舎
10月 2日～10日： 氷見市庁舎 16日～20日： 小矢部市総合保健福祉センター内
23日～30日： 立山町元気交流ステーション みらいぶ内
11月 6日～10日： 朝日町庁舎 13日～17日： 入善SCコスモ21内
27日～ 1日： 黒部市庁舎
12月 4日～11日： 舟橋会館内ロビー 11日～15日： 上市町つるぎふれあい館内

- 県内各種大会等での
広報活動 8月 6日 県警音楽隊コンサート
9月 1日 迷惑防止条例広報活動（越中中川駅）
9月 5日 交通安全県民大会
10月 2日 地域安全運動富山県民大会
10月10日 人身安全関連意見交換会
10月17日 女性被害防止キャンペーン（富山県高岡看護専門学校）
10月24日 法テラス富山地方協議会
11月15日 暴力追放富山県民大会



地域安全運動富山県民大会

- 講師派遣による啓発 10月 4日 小矢部被害者支援ネットワーク総会 11月10日 とやま被害者支援ネットワーク総会
10月18日 保護観察所にて保護司研修会 12月 5日 氷見被害者支援ネットワーク総会

- 市町村広報誌への広告掲載 富山市・黒部市・魚津市・上市町・高岡市・小矢部市・氷見市・南砺市
- 県警広報誌への犯罪被害者週間掲載
- センターだより第25号の発行
- 富山駅地下道へのセンター広告展示
- イオン幸せの黄色いレシート運動 7月～12月 各月11日（いづれも高岡イオンにて）
- 犯罪被害者週間広報キャンペーン 11月17日 高岡駅 11月24日 富山駅



犯罪被害者週間広報キャンペーン

自助グループ支援活動

8月25日 9月22日 10月27日
自助グループでは、小物製作しながらの話し合いも行ないます。



製作した「つまようじ入れ」

イオン幸せの黄色い レシートキャンペーン

毎月11日にイオン高岡店でお買い物
をされ、黄色のレシートを店内に設置さ
れた投函コーナーにある当センターのボッ
クスに入れていただきますと、レシート合
計金額の1%相当額の物品がイオンリテ
ール様から当センターに寄贈されます。
これを支援活動等の事務用品類などに
有効活用させていただきますので、
皆様のご協力をお願いします。



賛助会員・ご寄附の お願い

私たちの活動は、皆様からの会費・ご
寄附に支えられています。当センターの支
援活動は全て無料で行われるため、そのた
めには経費が必要になります。皆様のご支
援ご協力をよろしくお願いします。

◎法人会員 1口 10,000円

◎個人会員 1口 2,000円

お問い合わせいただければ、お
手続きさせていただきます。

新しく賛助会員になられた方々

オリックス・レンタカー北陸(株)
株 ツアーズジャパン
三栄自動車工業(株)

金森 陽子	久保 直治
杉本 光雄	瀧山 直人
竹本 正	中村千恵子
西島由紀子	西野 友章
濱谷真知子	樋口 裕一
谷内 郁子	山下 龍一
山村 正紘	

ホンデリングに ご協力を

皆様が読み終えた本などをご寄贈い
ただき、その売却代金を当センターへ
ご寄附として頂戴し、センターの活動に役
立てるといふプロジェクトです。読み終え
た本やCD・DVDゲームソフトなど、当セ
ンターにお持ち下さるか、ご連絡いただ
ければ取りに伺います。

皆様のご協力を、よろしくお願い
します。

寄付金自動販売機の 設置にご協力を

事業所等に寄付金付の自動販売機を
置いていただけませんか。皆様のご協力
のもと、自動販売機メーカーと契約し、売
上代金の一部(1本につき1円程度)を寄付
として頂戴するものです。現在、県警や
自動車学校等に設置させていただいて
おります。各事業所の皆様方にはぜひ
ご検討してみてください。

■「センターだより」の第24号から今号まで表紙絵を担当していた
いた野上祇麿氏(87)が10月23日死去されました。謹んで哀悼の意
を表するとともに、ご冥福をお祈りします。

ボランティア募集

とやま被害者支援センターは、犯罪の被害者やそのご家族等に
対し、電話相談や警察・病院・裁判所等への付添等を行い、被害者
等が再び平穏な日常生活を取り戻せるよう支援することを目的と
して活動しております。

ボランティアとして応募いただいた方々には、養成講座を受け、
支援活動に必要な基礎的な知識・技術を習得の後、被害者等から
の電話や面接による相談に応じていただきます。被害者等の心に
寄り添う様々な支援に関心ある方は是非ご連絡ください。

～来春ボランティア養成講座開講予定～

編集後記

先に開催の講演会のアンケートの中に「社会の表に
出にくい活動かと思いますが頑張って下され。」とのコ
メントを目にした。心打たれる思いと同時に「古典(古
今和歌集)に秋の季語として出てくる「穠(ひつじ)」を
思い起こした。

刈り取った後の稲株から新たに伸びてくる稲(「稲孫」
又は「ひこばえ」ともいう。)のことをいう。平素、顧みら
れることもなく見捨てられた存在であっても『見るべき
人は見ている』・・・被害者支援のボランティア活動に
も通ずるのではないだろうか。

公益社団法人

とやま被害者支援センターだより 第26号

平成29年12月25日発行

発行／富山県公安委員会指定犯罪被害者等早期援助団体
公益社団法人とやま被害者支援センター

責任者／事務局長 宮本 春慶

事務局／〒930-0858 富山市牛島町5番7号

TEL: 076-413-7820 FAX: 076-471-7825

E-mail: jimukyoku@toyama-shien.com

ホームページ: http://www.toyama-shien.com

